

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ③

有明の  
つれなく見えし  
別れより

秋風に  
たなびく雲の  
絶え間より

心あてに  
折らばや折らむ  
初霜の

忘れじの  
ゆく末までは  
かたければ

山里は  
冬ぞ寂しさ  
まさりける

田子の浦に  
うち出でて見れば  
白妙の

置きまどはせる  
白菊の花

暁ばかり  
憂きものはなし

今日を限りの  
命ともがな

漏れ出づる月の  
影のさやけさ

富士の高嶺に  
雪は降りつつ

人目も草も  
かれぬと思へば